

レソト王国に自然エネルギー発電を

在南アフリカ日本国大使館
(レソト兼轄)



日本は1982年の国連世界食糧計画(WFP)経由の食糧援助を始めとして、草の根・人間の安全保障無償資金協力、技術協力、無償資金協力を活用して、アフリカ南部に位置するレソト王国の貧困削減努力を支援しています。

今回は、令和3年度対レソト王国 JICA 無償資金協力「小水力発電整備計画」を紹介します。

レソト王国は国土の多くが山岳地帯ですが、複数の河川から当国中央部のカツェダムに水を集め、乾燥した大地が広がる南部アフリカの貴重な水瓶となっています。その豊富な水資源の一部を南アに送水することで国家収入としつつ、経由するムエラダムの水力発電では国内向け電力の60%以上を発電しており、ダムにたたえた水はレソト国民にとってかけがえのない資源です。

レソト国民の人口は近年も0.8%程度で増加し続けており、郊外への電力普及率も上昇していることから、2030年には現在の国内需要の2倍近い211MWとなると予想されています。しかしながら、目立った埋蔵資源がないレソト王国では更なる電力不足が予見されています。

このような背景のもと、日本政府はT I C A D 7で掲げた産業の多角化の基盤となる再生エネルギー開発を具体化する協力として、「小水力発電整備計画」の実施を政府間合意し、ダム内部への大規模な浸水により故障したカツエダムの小水力発電設備を改修・増築することとしました。

完成予定は2025年頃を見込んでおり、増強された設備で発電した電力はダム周辺村落へ供給される予定です。本協力は、2011年J I C A無償資金協力でモシヨエシヨエ I 国際空港に整備された太陽光発電システムと併せ、環境負荷を最小限に抑えた形での再生可能エネルギー電源の確保と有効活用の促進に繋がることと期待されます。